

課題③④に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
<p>(課題③) 特定の場所での事故が多い。</p> <p>(課題④) 追突事故が多い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆街頭キャンペーン ◆高齢者交通安全教室 	
	規制・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ◆道路交通法による規制 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆速度抑制路面標示 ◆国・府道の道路整備工事等の実施 ◆信号機、横断歩道の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全啓発用立看板 ◆市道の道路整備工事等の検討、計画、整備の実施(町会からの要望含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道路、路面標示等の整備、工事について、町会から市へ要望を提出。

交通安全対策委員会の取り組み
 ・街頭キャンペーン
 ・セーフドライブプロジェクト(new)

交通安全対策委員会の取り組み
 ・道路環境の整備

取組み① 交通安全教室(高齢者)

警察や交通指導員等が協力して、年齢に応じた交通安全教室を実施する。交通安全教室終了後、対策委員会で作成したアンケート調査を行い結果を反映する。

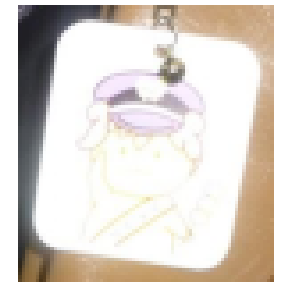
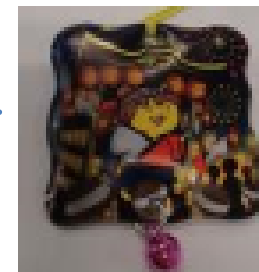
高齢者の歩行中の事故時間別発生件数

	0～6時	6～12時	12～18時	18～24時	計
2013	1死	3重	3重・1死	2重	10
2014		1重	4重・1死	1重・1死	8
2015		3重	3重	3重	9
2016		1重	3重	1死	5
2017		4重・1死	3重		8

出典：警察統計データ(2013年～2017年)



交通安全教室の最後に、反射材をその場で着用してもらう



取組み② 高齢者世帯訪問

各種会合等に参加しない高齢者世帯を訪問して、直接、交通安全を啓発する。
(重点：早朝・夜間の反射材着用の啓発)

交通安全母の会による配布



交通安全母の会による配布



啓発品

取組みの強化

2018年から、民生児童委員の方にも協力していただき配布を実施。

評価

①. 交通安全教室(高齢者)・②高齢者世帯訪問

	内容	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
活動 ①	高齢者交通安全教室 の実施回数、参加人数	32回 1,070人	37回 1,159人	38回 1,254人	39回 1,264人	46回 1,307人
活動 ②	高齢者世帯訪問の訪 問人数	597人	468人	592人	453人	552人
短期	交通ルールに対する意 識の向上(交通安全教 室終了後)	2018年より実施				交通ルールを 守ろうと思う 100% n=582
中期	反射材の着用に対する 行動変化(交通安全教 室終了後)	2018年より実施				今後着用する →51% 夜間着用して いる →38% n=582
長期	高齢者の交通事故発 生件数 (加害、被害含む)	84件	78件	74件	84件	58件

取組み③ 交通安全教室(子ども)

小学生、中学生に対して、自転車の交通安全利用を重点的に啓発（一時停止、ヘルメット着用、道路横断時の安全確認など）。交通安全教室終了後、対策委員会で作成したアンケートを調査をし結果を反映する。



自転車ヘルメット
購入補助金
上限2,000円



いっしょに 自転車ヘルメット 家族みんなで着用を

自転車ヘルメット購入補助金をご利用ください

皆さんが安全で、安心して自転車に乗りたいなら、ヘルメットを着用しましょう。ヘルメットを着用することで、万一の事故の際に頭を守ることができ、怪我を防ぐことができます。また、ヘルメットを着用することで、周囲の目が気にならず、安心して乗ることができます。ヘルメットを着用することで、自分の命を守ることができます。

【対象者】
公立・私立の小学校・中学校に通学する小学生・中学生で、自転車に乗る際にヘルメットを着用していることが確認できる児童・生徒です。

【申請方法】
申請書に記入し、必要書類を添付して、申請先へ提出してください。

【申請先】
申請先は、各自治体の交通安全推進課または交通安全協会です。

【お問い合わせ先】
交通安全推進課 電話：099-22-1111 FAX：099-22-1112

「止まる、見る、待つ、確かめる」
幼稚園～小学校6年生まで毎年指導

取組みの強化

- ・ 単語で繰り返し確かめる活動の実施
- ・ 自転車ヘルメット購入補助金の利用促進

評価

交通安全教室(子ども)

	内容	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
活動	子どもの交通安全教室の実施回数、参加人数	49回 4,543人	51回 4,583人	53回 4,819人	50回 4,890人	43回 4,672人
短期	交通ルールに対する意識の向上(交通安全教室終了後)	2018年より実施				交通ルールを守ろうと思う 98%
中期	自転車ヘルメットの着用率	2018年より実施				<ul style="list-style-type: none"> ・着用している →36% ・たまに着用している →16% ・もっていない →36% n=136
長期	子どもの自転車事故受傷件数(重傷)	13件 (3件)	18件 (2件)	7件 (3件)	12件 (0件)	6件 (0件)

取組み④ プロドライバーからの情報収集

タクシードライバー、路線バスドライバーなどの、プロの視点から交通マナーについて、アンケートによりデータ収集を行う。

2019年2月実施アンケート結果 【()は2015年データ】

	徒歩	自転車	バイク	自動車	その他	合計
子ども	0(1)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
中高生	2(2)	8(7)	0(1)	0(0)	0(0)	10(10)
大人	7(16)	6(8)	4(5)	8(38)	1(7)	26(74)
高齢者	6(4)	10(12)	3(0)	10(11)	1(3)	30(30)
合計	15(23)	25(27)	7(6)	18(49)	2(10)	67(115)

アンケート調査の結果、「危険行為があった」と複数回答数は67件。

取組み⑤ 街頭キャンペーン

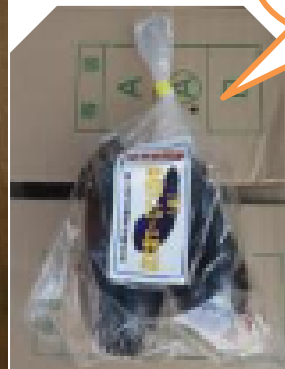
ドライバーを対象に、街頭キャンペーンによる啓発品の配布を実施。（交通事故多発地域を重点的に実施）



おしぼり
作戦



啓発品



取組み⑥ 道路環境の整備

追突事故多発地域や、狭い道路等に路面標示や速度抑制注意看板を設置。



今後の取組み強化

交通事故データを基に、事故多発地域に路面標示や注意看板の設置等を行っていく。

評価

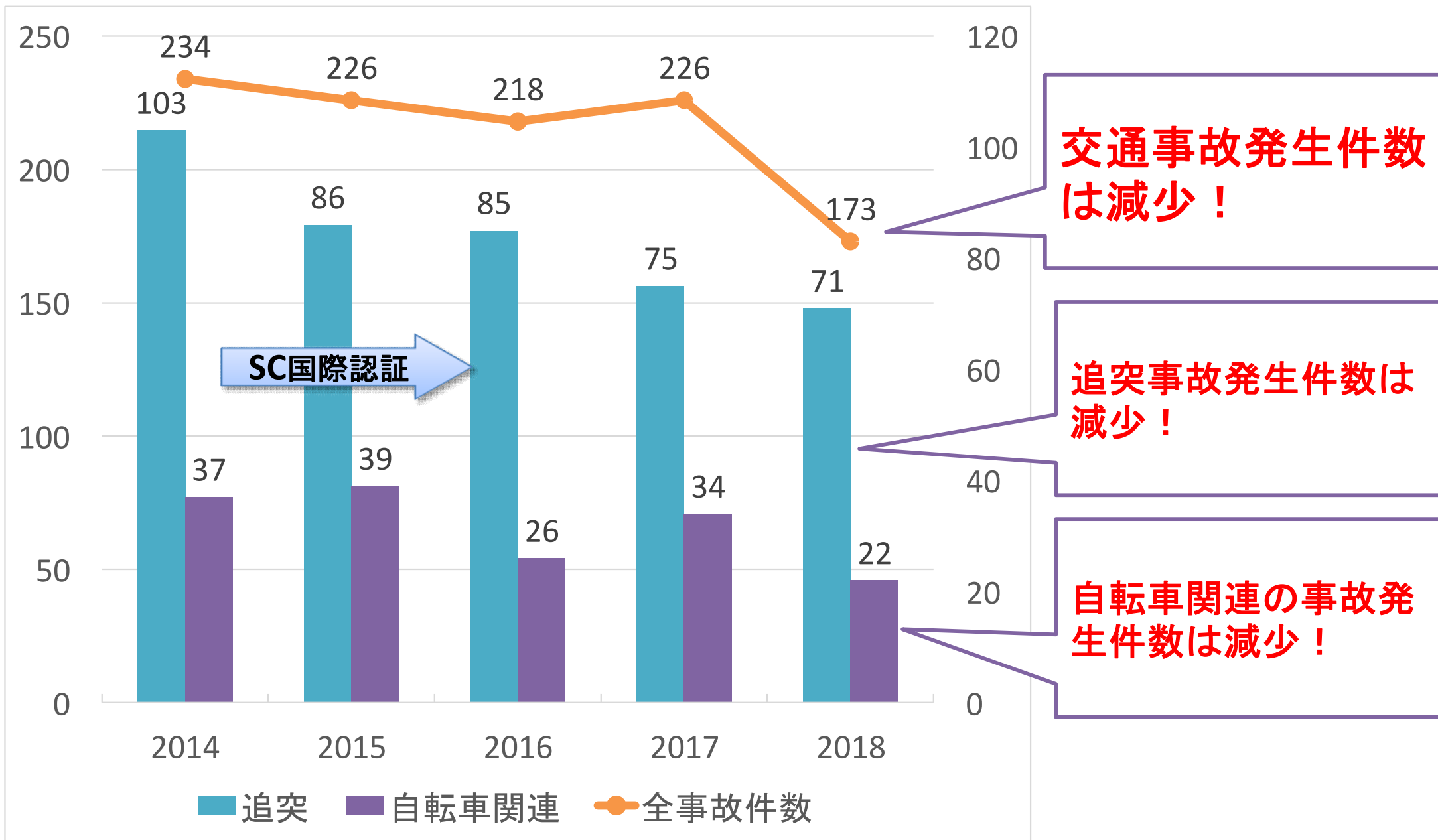
⑤街頭キャンペーンの実施・⑥道路環境の整備

	内容	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
活動 ④	街頭キャンペーン実施回数	40回	30回	32回	34回	51回
活動 ⑤	道路標示・看板設置件数	30件	20件	32件	36件	41件
短期	交通ルールに対する意識の向上(アンケート結果)	—	—	—	—	69.7% n=1084
中期	追突事故発生件数	103件	86件	85件	75件	71件
長期	交通事故発生件数	234件	226件	218件	226件	173件

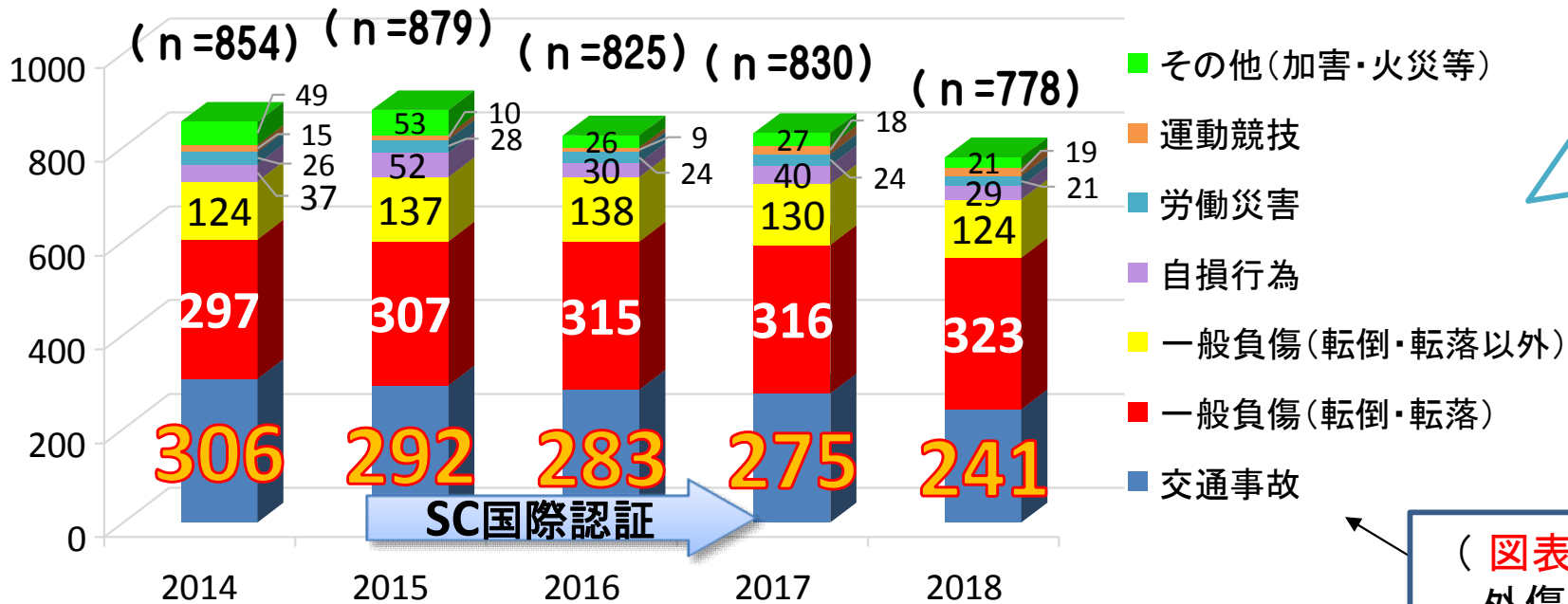
取組みによる全体的な成果①

(図表9:交通事故発生件数 追突事故および自転車関連)

出典:警察統計データ(2014年~2018年)



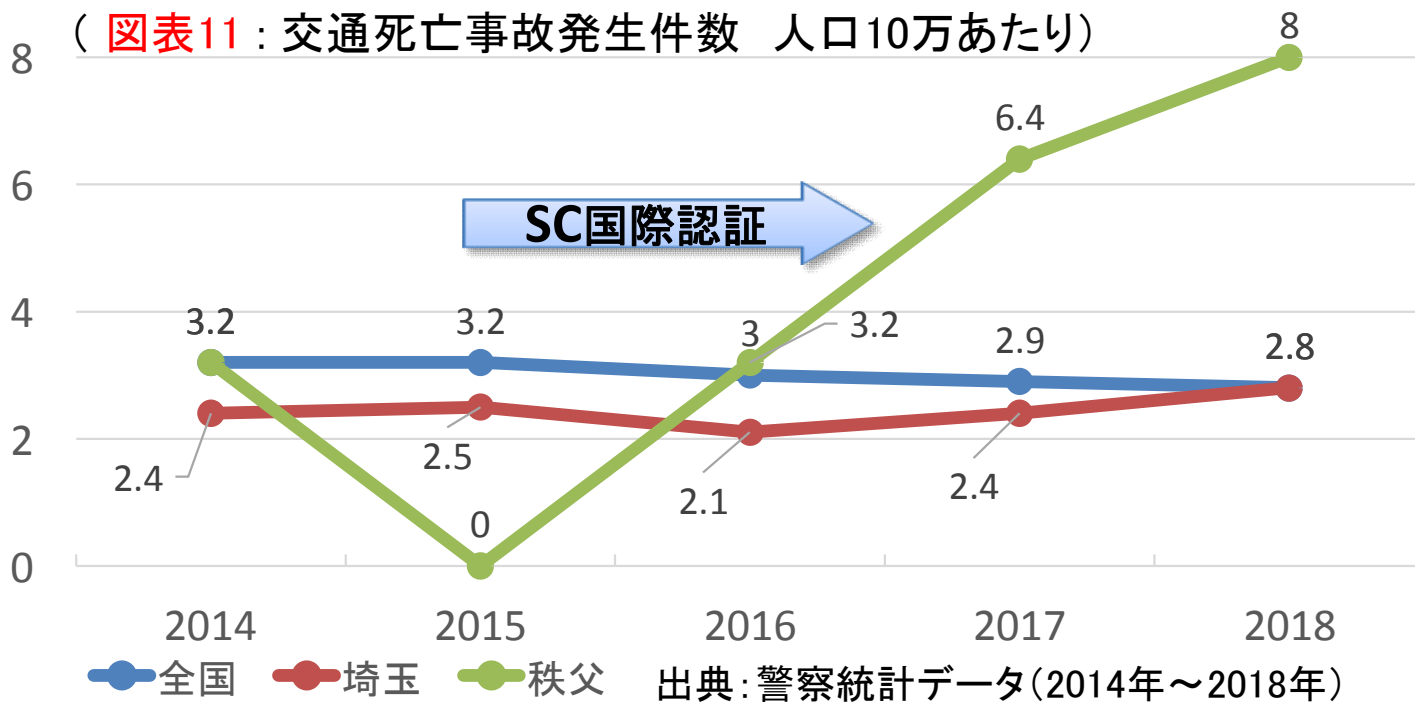
取組みによる全体的な成果②



全体の救急搬送件数は減少し、交通事故による件数も減少を続けている。

(図表10 : 事故種別による分類 外傷・事故別救急出動件数)

出典: 救急搬送データ(2014年~2018年)



全国、県平均と比べて、高い割合を示しており、年々増加している。
→今後の動向に注視

出典: 警察統計データ(2014年~2018年)

認証後の変化・気付き

【新規取り組み】

セーフドライブプロジェクト

秩父市オリジナル
ステッカーを考案中。

日常生活の中で、決められた速度や交通ルールを守り、安全走行に努める市民ボランティアや事業所を募集する。

優良ドライバーを増やしていくことで、運転に関する意識改革を図り、交通事故「0」を目指していくものである。

9月～12月末
ステッカーデザイン
を募集締切

2月
ステッカー作成

1月
ステッカーデザイン
を決定

3月
ボランティア募集

今後の課題

課題

交通死亡事故への対応

運転手に対する対策の充実（セーフドライブプロジェクト）を図り、歯止めをかける

課題

自転車ヘルメットの着用率の向上

自転車ヘルメット購入補助金の周知、小中学校へ着用を呼びかける

課題

より効果的な啓発・普及活動の実施

より効果的な啓発ができるよう、実施方法、啓発品を見直し、他対策委員会や団体との連携

ご清聴ありがとうございました



国際認証都市
セーフコミュニティちちぶ